2009年夏　東恩納（ひがしおんな）　琢磨（たくま）　名護市議会議員　活動報告

〒905-2266
名護市瀬嵩47番地
TEL　0980-55-8587
東恩納琢磨後援会発行

たくま便り　第2号

残暑お見舞い申し上げます

ご無沙汰しています。皆様のご支援に支えられ、6月で議員となって1年が経ちました。この1年間、皆様からいろいろなお声を頂きました。私としては精一杯答えようと取り組んで参りましたが、まだまだ課題が山積みです。これからも初心を忘れずに一歩一歩がんばって行きたいと思いますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

☆一年を振り返って

この一年間、議会を通し名護市の政策決定の現場に立ち、名護市政の問題が基地関連交付金に頼った「受身の思考」にあるのではないかと強く感じるようになりました。

例えば二見以北地域の4小学校統廃合は、市が二見以北の児童数を増やす政策をなにもしないまま決行されました。他の市町村ではUターン、Iターンを促す事により、児童数が増え、廃校を避けられた例もありますが、名護市ではそう言った努力はなされないまま、「統廃合ありき」で3つの小学校が姿を消したのです。閉校された小学校は長年、地域の絆を深めるための重要な場所でした。「小学校閉校は地域から明かりが消えるようなものだ」との声も聞かれ、過疎の拍車が心配されています。しかも今まで教育委員会が運営していたスクールバスが、今年度より基地再編交付金で民間委託されるようになりました。当然名護市の独自予算で出すものまで基地交付金頼りなのは恥ずべき事です。それに平行して市は久志給食センターを老朽化を理由に閉鎖しました。そして合理化の名の下、現在の5つの給食センターを2つに統合し、各4000食配食できる巨大センターの建設計画を打ち出しています。しかし学校給食は今『食育』という視点から、全国で自校式(各学校で学校ごとの給食を作る)が見直され、文科省も自校式を促す答申を出しています。名護市の政策はこの全国の流れに逆行しています。市は大型給食センターでも地産地消は可能だとしていますが、量産していない地域の食材を使うことが困難になったり、手間を省くために冷凍食品が増えたりしないのか、疑問の残るところです。

同じ予算で基地交付金から援助することになったものにドクターヘリ事業があります。今回の援助によって北部地域のドクターヘリの運行が一時的に再開されることになっても、この問題の根本的な解決にはなりません。まず他県と協力し、各県に一機しかドクターヘリを認めないとする、国の方針の見直しを要請し、また沖縄県全体での予算捻出を長期的に考えていく必要があるはずです。交付金に頼ることは問題を先送りするにすぎないのです。

こうした例でも明らかなように、名護市の政策決定には主体性がかけています。基地関連交付金に頼った安易な合理化や過疎地域の切り捨て、その場限りの予算編成を繰り返しています。これでは名護市は生きにくい場所、希望の持てない場所となってしまいます。

☆これからの課題

この状況を変えるために、まず偏った基地再編交付金の使い方を改め、「地域力」をつけるための予算配分を行う必要があると思います。

例えば、ジュゴンの保護区を作り、アオサンゴの保護区を作り、地域の取り組みを紹介するインフォメーションセンターを作る。そして名護市の独自性をアピールし、より多くの人が訪れやすい環境を整備する。その様な持続的に地域が発展していける体制づくりを市は進めるべきはないでしょうか。最近、農業・漁業産物を加工から販売まで生産地で行い、現地で直接観光客に販売する1.5次産業が注目を集めていますが、観光客の増加が見込まれれば、こうした新しい分野への道も開けます。私は特色ある豊かな自然を守りながら利活用し、私たちの暮らしを守る方法を作るという大きなビジョンを視野に入れつつ、同時に地域の個々の問題に取り組んで行きたいと考えています。市民の皆さんも名護市を住みよい町にするために一緒にがんばりましょう。

活動報告1　自然を生かして地域を元気に！

☆アオサンゴの保護区制定に向けて

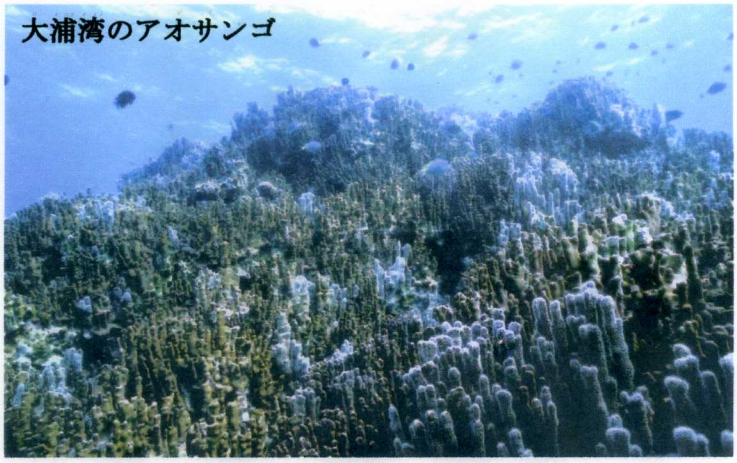
大浦湾には世界自然保護連合が 2008 年絶滅危惧種に指定したアオサンゴの大群落が広がっています。私たちは

1・アオサンゴを県の天然記念物に指定すること

2・大浦湾内のアオサンゴの生息地を保護区に指定すること

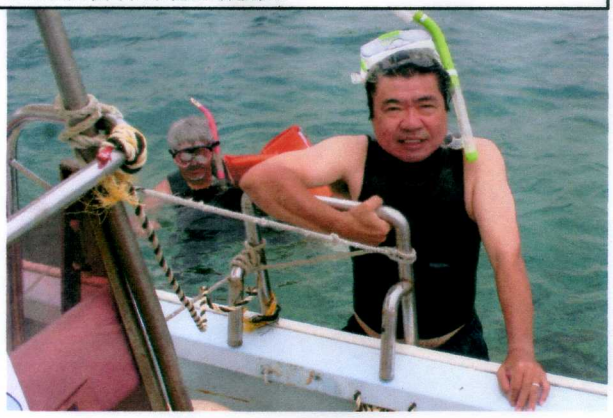
3・その保護区の保全管理ルールを作るにあたって、自然保護団体と地域住民及び、漁業関係者の間でトラブルが起きないように県として話し合いの場を設けること

を求めて県に陳情書を提出しました。それを受けて、今年 5 月ジュゴン保護基金委員会の案内で髙嶺善伸県議会議長の視察を実現することができました。大浦湾のアオサンゴの大群落は世界的に見ても大変貴重なものです。私たちのふるさとには、こんなすばらしい地域おこしの材料があるのです。自然を生かして私たちの地域を発展さていきましょう！



大浦湾のアオサンゴ

シュノーケリングで大浦湾のアオサンゴを視察した髙嶺善伸県議会議長



議長を囲んで・案内役の私たちとの記念撮影

☆　瀬嵩のウラジロガシを市の天然記念物に！

名護市瀬嵩には**オキナワウラジロガシ**の巨木があります。(右写真)

オキナワウラジロガシは沖縄県の絶滅危惧種 II 種に指定されていて、日本最大のどんぐりをつけることで有名です。この瀬嵩の巨木を名護市の天然記念物にするために教育委員会に働きかけています。

指定されればこの木の保護を地域として取り組みやすくなります。また市内小学校で、環境教育の一環としてこの木の観察を取り入れる事もできます。子どもたちが地域を誇れる材料が一つでも増えれば、ふるさとを大事に思う気持ちがよりはぐくまれるのではないでしょうか。私はこの木の根元で樹齢 200 年・300 年の生命力を感じることができました！名護市の財産であるこの巨木を残していく取り組みを一緒にしていきましょう。

活動報告2　基地はいらない！

新基地建設のために行われている環境アセスが進んでいます。きちんとしたアセスをすれば、ここに基地を建設することなど到底できません。日本が環境を守る国なのか否か全県、全世界が見つめています。

☆　『普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境アセスメント準備書』に対する意見書が5000通余り集まりました。

5月15日5000通を超える意見書を沖縄防衛局に提出してきました。

これだけの意見書が出されるということは、多くの人がこの新基地のアセスに対して疑問を抱いている表れだと思います。

防衛省が今まで行ってきたアセスは住民との合意形成を基本理念に置いていたとは到底言えません。

縦覧期間が終わってから新しい資料を出したり、アセスの事前・事後調査を行ったり、ジュゴンについて必要といわれる複数年の調査を一年で切り上げたり、なにより米軍が実際どうやって基地を使うのかを把握できていないので、安全性については多くの疑問が残ったままです。環境アセスはただ踏めばいい手続きではなく、事業を行うにあたって、住民との合意を図る大事な過程です。このまま数々の問題をうやむやにさせるのではなく、「方法書」からのアセスのやり直しを求めて行く必要があると思います。辺野古で環境アセス法の精神が尊重され、きちんとした手続の下、環境アセスが行われることは大変重要なことです。沖縄から日本の正しい環境アセスの歴史を始めさせたい、そう思っています。そのためにも国が自ら法を犯すことのないように、しっかり監視していこうと思います。

☆2008年スペイン・バルセロナで出されたジュゴン保護に関する国際自然保護連合の勧告履行を求めて、

5月21日3万人分の署名を国会議員に提出しました。

山内徳信議員に署名を提出。

記念撮影(左から川田議員、辻本議員、赤嶺議員
山内議員、東恩納、右から二人目紙議員)

署名してくださった方々どうもありがとうございました。この勧告で国際自然保護連合は日本政府に対して、世界のアセスでは常識となっているゼロオプション(事業を行わない選択)を含む適切な環境アセスメントを行うよう求めています。ジュゴンの海を守り私たちのふるさとを守ることは、私たちの暮らしを守ることでありますが、同時に世界の貴重な環境を守ることにもつながっているのです。
これからも地元から政府に具体的な対応を求めていきたいと思います。皆さんもぜひご協力ください。

活動報告3　市議会では

☆　「米軍訓練空域・水域の一部解除に関する意見書」が名護市議会より出されました。

県議会での同様の決議を受け、名護市議会は2008年12月18日に、以下を記した意見書を国に提出しました。

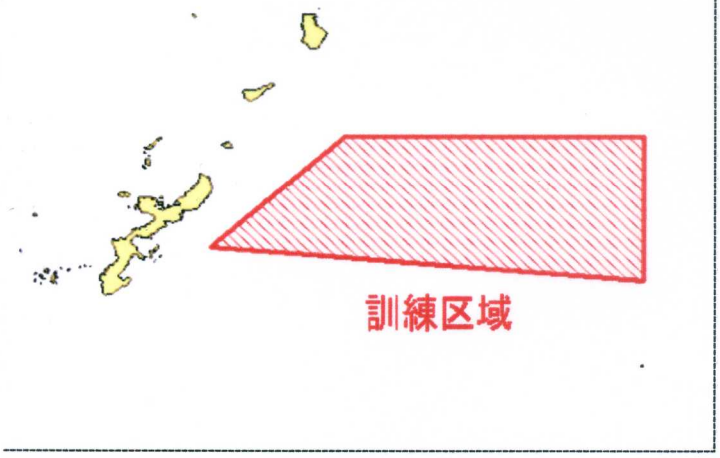
> **1.　ホテル・ホテル訓練区域の一部（水域約3600km²）に関し設定・提供を直ちにやめ、変換すること。**
>
> **2.　鳥島射爆撃場（空域269．25km²、水域96．89km²）及び久米島射爆撃場　（空域　368.64km²、水域10．78km²）の設定・提供を直ちにやめ、不発弾の回収処理等原状回復を行った後、変換すること。**

アメリカ軍の沖縄県における海上訓練地域は広域に及びます（下図参照）。

沖縄の漁業者はカツオ、マグロ、ソデイカ、モズク養殖などの好漁場となっている本島周辺海域・沿岸域に行くのに、訓練水域のために迂回を余儀なくされています。この問題について、名護市議会で初めて全会一致でホテル・ホテル訓練地域の返還を求める議決を出せたことは大変大きな意味があると思います。しかし下の図を見てもわかるとおり、沖縄の海は西も東も米軍の訓練海域にされていて、私たちの思うようには使えません。これからも沖縄の海を取り戻すべく、国にどんどん意見を述べていきたいと思います。

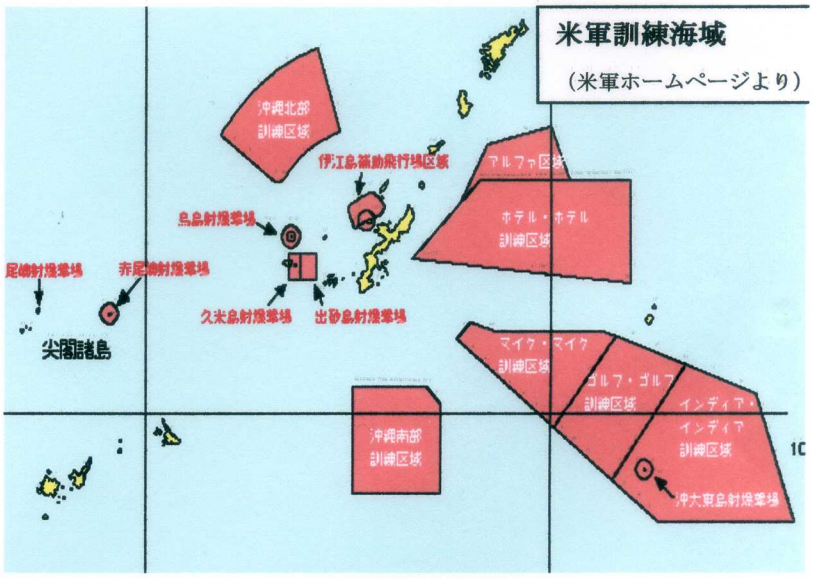
（意見書の全文は名護市のホームページで見ることができます。）

ホテル・ホテル訓練地区



米軍訓練海域

（米軍ホームページより）



☆　9月の議会で

9月の定例議会が3日より始まります。私は一般質問で辺野古地域に建設が予定されている下水道処理施設について、主な時間をとりたいと思っています。市はこの施設でキャンプシュワブの汚水処理を請け負うことと引き換えに、基地交付金からその予算を捻出しようとしています。生活に直接関わることに基地交付金が使われ、基地との共存を強いられていく構造を、多くの市民が望んでいるとは思えません。市は自治体としての責任を果たし、基地に頼らないで市民生活に必要不可欠な事業を行うために、覚悟を決めて知恵を絞るべきだと思います。